

次代を担う子どもたち

防災訓練で大平小学校の各学年の児童代表が山元町での体験を発表



たかはし りな
高橋 里奈さん（1年生）

山元町に行って、菅野さんから津波の話の聞いたら、悲しくて涙がでそうになりました。

私はまだ子どもだけど、これから何ができるのか考えていきます。菅野さんのハウスで食べたイチゴはおいしかったです。



しまむら ゆりか
島貫由莉香さん（3年生）

全校生徒で約3千個のポットに土を入れました。大変でしたががんばりました。菅野さんから、山元町だけで634人が、津波で亡くなったと聞き、これからは、応援や1円募金、アルミ缶集めをして、山元町の復興のお手伝いをしたいです。

もし、津波で私の家が流されてしまったら悲しいです。津波に襲われた人は、こわかったと思います。今回、山元町に行って復興のお手伝いができて良かったです。みんなで力を合わせればこわいことはないと思います。山元町はきっと、力を合わせて復興すると思います。



たかはし ゆりか
高橋有里佳さん（5年生）

私たちは3年前から山元町に行っています。平成24年2月は、海の近くにある中浜小学校に行きました。校庭には、津波で流されてきた車が何千台もあって、体育館のステージの床は、大きく割れていました。小学校の中に入ると、津波で

流されてきた木の枝などが散乱。2階に行くための階段を登ると、津波がどこまで押し寄せて来たのか壁に土がついていたので分かりました。図書室だった部屋は、本などが津波で流されて何もありませんでした。屋上に行く階段の手すりも、海の塩分で鉄がさびていました。屋上からは海が見えました。生徒たちは屋上にある空き部屋で一晩を過ごし、次の日に救助隊に助けられたそうです。

平成24年9月は、仮設住宅に行きました。仮設住宅に住む人の話を聞いて、3月11日にあったことがよく分かりました。次にイチゴハウスに行きました。イチゴ農家の菅野さんは、塩分が土にあるため苗が植えられないのでパレットみたいなものに苗を植えていると話していました。

平成25年6月は、再び菅野さんのイチゴハウスのお手伝いをしました。ポットという細い入れ物にふかふかの土を入れる作業をしました。土がふかふかなので、何回押しても奥まで入るので何回も押して、奥まで土を入れました。山元町のことをいっぱい知ることができて良かったです。

これからもアルミ缶集めなどできることを続けて山元町に送ったり、山元町に行ったりしたいです。



みょう みはる
名生 美晴さん（2年生）

菅野さんに土の入れ方を教わり、ポットに土を入れるお手伝いをしてから、イチゴを食べました。ハウスの中はいいにおいで、イチゴは甘くておいしかったです。また来年もお手伝いをしたいです。そして、家族で山元町に行きたいです。



やまもと ひろたけ
山本 博健くん（4年生）

6月4日、山元町に行きました。去年は、菅野さんのビニールハウスにイチゴはなかったのですが、今年は、おいそうなイチゴがたくさん育っていました。こんなに早くイチゴを復活させるためには、とても苦労したと思います。

ぼくは被災して絶望しそうになりながらも、ふるさとでイチゴ農家を続けている菅野さんの心に、とても感動しました。そして、菅野さんだけではなく、ぼくたちもその強い心を持ち続けて、復興のためにできることをたくさんしていきたいです。とても勉強になった一日でした。



さく ましゅうき
佐久間翔貴くん（6年生）

1回目は、中浜小学校へ行きました。体育館の床ははがれ、1階部分は水に流され、2階もガチャガチャになっていました。中浜小学校にいた人たちは、屋上で一晩過ごしたそうです。

2回目に行った時は、菅野さんに3月11日にあったことなどを聞き、命の大切さを感じました。次に仮設住宅に住んでいる人から、どんな生活をしているかを知りました。

今回は、黒い筒のようなポットに土を押し込んで、土が入らなくなったら、別のかごに入れる作業をしました。イチゴ栽培は、ここからまたいろいろな作業があるそうです。作業の後、菅野さんのイチゴハウスで赤く実ったイチゴを食べさせてもらいました。菅野さんやみんなのお陰で実ったイチゴだと思いました。甘くて、おいしいイチゴでした。イチゴを作るのにこれだけの苦労が必要だということを知り、最後にみんなで山元町と「夢いちごの郷」にエールを送りました。1回目より、2回目より、3回目の方が家が建っていたり、ビニールハウスが建っていたり、人間の力ってすごいなあと思いました。家が建ち、赤いイチゴも実っているのです。

ぼくの家でも、福島第一原子力発電所の事故による放射性物質の飛散で、シイタケが栽培できなくなって、おじいちゃんがとても大変な思いをしています。でも、あきらめないで、菅野さんの生き方や、山元町の皆さんの努力を見習って、ぼくの家や白石市のためにがんばっていきこうと思います。



3



2



1

1_災害発生時、大平地区では各世帯が安全確認の黄色いハンカチを玄関前に掲示。黄色いハンカチの不掲示世帯には、民生委員と各自自主防災組織員が安全確認のため訪問 2_避難者受付用紙を取りまとめる児童たち 3_お湯や水を入れるだけで食べられるアルファ米を試食。おいしいと大好評!

学校と地域住民が一体

大平自主防災組織連合会総合防災訓練

大平小学校の児童たちが地域住民と協力して避難所名簿などを作成

6月9日、「白石市総合防災訓練」に合わせ、「大平自主防災組織連合会総合防災訓練」が大平小学校などで実施された。大平小学校で行われた防災訓練では、学校と地域住民が一体となった訓練を実施。「避難所開設・運営訓練」には、6年生を中心とした児童も参加し、避難者名簿の作成や集計などを行った。またこの日は、自分の身は自分で守ることや、地域の力で命を守ること、減災の輪を地域に広げるため必要となる取り組みなどを紹介するDVDを参加者全員で観賞。地域における協力体制の必要性などを学んだ。

各学年の児童代表が山元町での体験を発表

この日の訓練では、平成23年度から総合学習の一環で、2度にわたって山元町を訪問し、本

年6月、同町高瀬地区でイチゴ栽培に取り組んでいる菅野孝雄さんのハウスで、来シーズン用の苗植への準備に取り組んだ、同校の各学年の児童代表が同町での体験を発表した。児童たちの発表を聞いた参加者は、「当たり前の日々が、続くこと自体が『ありがたい』と思います。今回の訓練で、人は支えられて生きていることを教えられた気がします」と話していた。

災害の時は自治会を越えた連携が必要

訓練後、大平自主防災組織連合会の大野四郎会長は、「300人を超える人たちが大平小学校に集まって、地域の人が地域の人を守るための訓練などに参加してくれました。これは、災害に備えようという気運が高まっているからだと思います。これからも、一つ一つ訓練を重ねて互いに守り、支えていきたいと思います」と語った。



イチゴの苗植への準備を行う児童たち



山元町のイチゴは、甘くておいしいよ!

学校は命を守る場所

大平小学校長 奥田 茂人さん



今回の訓練では、6年生を中心とした児童たちと地域住民が一体となって、避難者名簿の作成や集計を行いました。児童たちにこうした活躍の場を与えることで、地域の方々とつながりや地域の一員であるという意識が生まれるのではないかと思います。

学校は地域の防災拠点。地域住民の皆さんとの日ごろからのふれあいを通して、児童たちが感じ、学び、そして成長してくれることを願います。